2021年4月

ロジクールRally Bar

***Android**ベースの一体型**USB**ビデオバー（中会議室向け）*
実地テスト。

本評価のスポンサー：

背景

1981年に設立されたLogitech International S.A.（日本法人：株式会社ロジクール） は、Webカメラ、キーボード、標準的なPC用マウスやゲーミング用マウス、PC用スピーカー、モバイルスピーカー、タブレット用アクセサリ、ホームコントロールデバイスやリモコンなどのPC用周辺機器メーカーとして業界をリードしています。

ロジクールは、2011年にビジネスユーザ/エンタープライズユーザーを対象とした幅広い製品とアクセサリを提供する「Logicool Video Collaboration」事業部を設立しました。 Recon Researchは、ロジクール BRIO、ロジクール Group、ロジクールMeetUp、ロジクールRally、ロジクールTap、ロジクールSwytchなど、同社の事業部が提供する数多くの製品を使用し、評価してきました。

2021年1月、ロジクールは、AndroidベースでBYOD（Bring Your Own Device）対応の中会議室向け一体型ビデオバー、Rally Barを発表しました。

2021年3月、ロジクールはRecon Research（RR）テストチームに、独立した第三者機関によるRally Barの評価を依頼しました。 本書では、そのテストの結果を発表します。

ロジクールRally Barとは

ロジクールRally Barは、中会議室向けに設計されたマルチモードの一体型ビデオバーです。Rally Barは、USBモード（BYODおよび会議室用PC）とアプライアンスモードの両方に対応しています。[1]

図1：ロジクールRally Bar（グラファイト）- PCおよびロジクール Tapタッチコントローラはオプション

図2：ロジクールRally Bar（ホワイト）- 3台のRallyマイクポッドおよびマイクポッドマウントはオプション

[1]テスト時に、Rally Barがアプライアンスモードで対応していたアプリケーションはZoom Roomsのみでした。

Rally Barの標準パッケージには以下が含まれています。

- Rally Bar（以下を搭載）
  - 15倍ズーム（光学5倍、3倍デジタルが、今後のソフトウェア更新により利用可能）、自動フレーミング（ロジクールRightSightを使用）、電動式パン/チルト/ズームを備えた、4K（Ultra-HD）カメラ
  - 集音範囲4.5mの、6本のビームフォーミングマイクからなるマイクアレイ（別売のRallyマイクポッドを3台まで追加可能）
  - 70mmドライバを備えたデュアルスピーカー
  - HDMI出力x2、HDMI入力x1、USB-Ax3、USB-Cx1、イーサネットx1、外部マイク入力x1（Rallyマイクポッド用）
  - テーブルスタンド（オプションのウォールマウントとディスプレイマウントにも対応）
- Bluetooth Low Energy（LE）リモコン
- USB 3.0ケーブル（2.2m）とHDMIケーブル（2m）[2]
- メインカメラとAIビューファインダーのレンズキャップ
- 外部電源と電源コード

Rally Barは以下のオペレーティングモード（活用方法）に対応しています。

1) **アプライアンスモード** - Rally Barはコンピュータ内蔵のため、別途PCやユーザーのノートPCを用意しなくても、Zoom Roomsなどの主要なビデオ会議アプリケーションを実行できます。

2) **USB（BYODまたは会議室用PC）モード** - Rally Barを会議室用PCかユーザーのノートPCのいずれかに接続すると（BYODモード）、そのデバイスのカメラ、マイク、スピーカーとして使用できます。

Rally Bar製品ファミリーには、小会議室向けのRally Bar Mini（2021年夏発売予定）や、大会議室向けのモジュール式のRally Plusもあります（以下の写真を参照）。

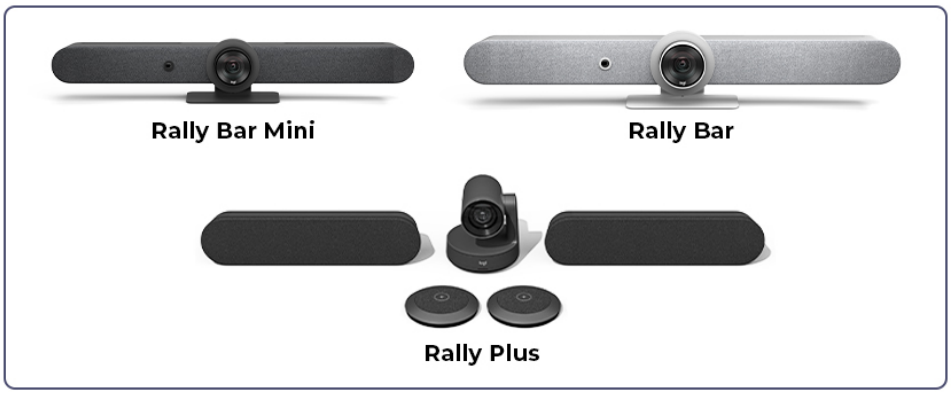

図3：ロジクールの次世代会議室ソリューション

Rally Barは、ロジクールの販売代理店、小売店、ネットショップ、ロジクールウェブサイトで販売中です。グラファイトとホワイトの2色があり、参考価格は395,500円（税抜）です。

[2]ロジクールは、ロジクール ストロング USBケーブル（10m、25m）もオプションで販売しています。

システムの設置および構成

ロジクールRally Barは、ロジクールの他のコラボレーション製品（MeetUpやRally）と同様の（ただしアップグレードされた）デザイン思想に基づいた、優れた設計の魅力的なデバイスです。

箱から取り出すと、Rally Barのサイズと重量を実感できました。 Rally Barの長さは約91cmで、大成功を収めた同社のMeetUpビデオバーの2倍以上あり、大半の競合製品よりも長くなっています。 重量も7.08kgと、ほとんどのビデオバーよりも重くなっています。

しかし、この比較的大きなサイズには合理的な理由があります。ほとんどの競合製品と異なり、Rally Barは中会議室での使用を想定して設計されているのです。

Rally Barは以下の手順で設置します。

- 同梱のHDMIケーブルでビデオバー本体と会議室のディスプレイを接続します（ユーザー側で2本目のHDMIケーブルを用意すればデュアルディスプレイにすることも可能）。
- Rally Barとディスプレイ（タッチ操作用）、Rally Barとロジクール Tapタッチコントローラ、この組み合わせの両方またはいずれかを、USBケーブルで接続します。
- 電源とイーサネット（ビデオ会議と管理の両方に使用）を接続します。
- 同梱のUSB 3.0ケーブルとHDMIケーブル（USB/BYODモード用）をRally Barに接続します。
- Rally Bar本体を適切なマウント（テーブルマウント、ディスプレイマウント、ウォールマウントのいずれか）を使って設置します。

今回のテストでは、Rally Barを中会議室に導入しました。 まず、Rally Barをテーブルの上に設置し（同梱のテーブルマウントを使用）、それから当社のDell 4Kタッチディスプレイ（FlatFrogのテクノロジー搭載）の真下に設置しました（オプションのディスプレイマウントを使用。以下を参照）。

最初のテストでは、Rally BarをZoom Roomsデバイスとしてアプライアンスモードで使用し、ロジクール Tapと当社で用意したタッチディスプレイの両方を使って操作しました。

図4：当社のテスト環境に設置されたロジクールRally Bar

AV業界で数十年の経験を積んでいる当社は、ケーブルを適切に管理することの重要性を認識しています。 残念ながら、コラボレーションデバイスのベンダーの多くは製品設計の段階でケーブル管理のことを見落としています。 ロジクールは明らかに例外です。

最近評価を行った他のロジクール製品（ロジクール Tapとロジクール Swytch）と同様、Rally Barのケーブル管理システムでは、接続部分を隠し、ストレインリリーフとケーブルリテンションによってすっきりとした設置を可能にしています。

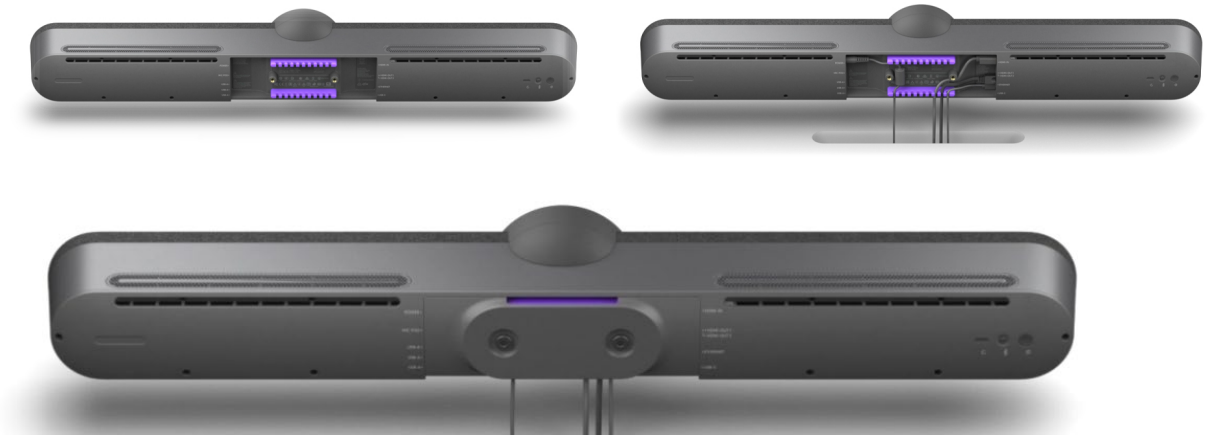

図5：ロジクールRally Bar - 本体に組み込みのケーブル管理

左上の写真はRally Barのケーブル接続部を写したもので、紫色の部分はケーブル保持ブラケットです。 右上の写真は、ケーブルを接続したケーブル接続部の様子で、リテンション ブラケットのスロットを使った配線の例を示しています。 下の写真は、配線を終えた後で、背面カバーをかぶせたところです。

他のベンダーもロジクールのケーブル管理を見習ってくれることを期待しています。

Zoom Roomsライセンスのアクティベーション

設置が完了したので、電源を入れ、Rally Barとロジクール Tapコントローラが起動するのを待ちます。このときシステムから、未認証のZoom Roomsシステムをアクティベートするよう促されます。

図6：ロジクールRally Bar - Zoom Rooms の起動画面

ロジクール Tapを使ってZoomのユーザー認証情報を入力し、Zoom Roomsのライセンスをアクティベートします。これで、テストを開始する準備が整いました（上の写真）。

デバイスを箱から取り出し、テーブルスタンドを設置し、必要なすべてのケーブルを接続し、Tapコントローラを接続し、ロジクールRally Barを使って最初のZoom通話を行うまで、10分とかかりませんでした。[3]

箱から取り出し、設置し、ロジクールRally Barを使って最初のZoom通話を行うまで、10分とかかりませんでした。

ロジクール Sync ポータルへの登録

次に、以下の手順で、ロジクール Sync ポータルアカウントにRally BarとTapコントローラを登録しました。

1) Tapコントローラまたはタッチディスプレイから Rally Barの[Logitech Settings（ロジクール設定）]メニューにアクセスします。
2) [Sync Portal（Sync ポータル）]メニューにアクセスします（下図の左上のアイコン）。

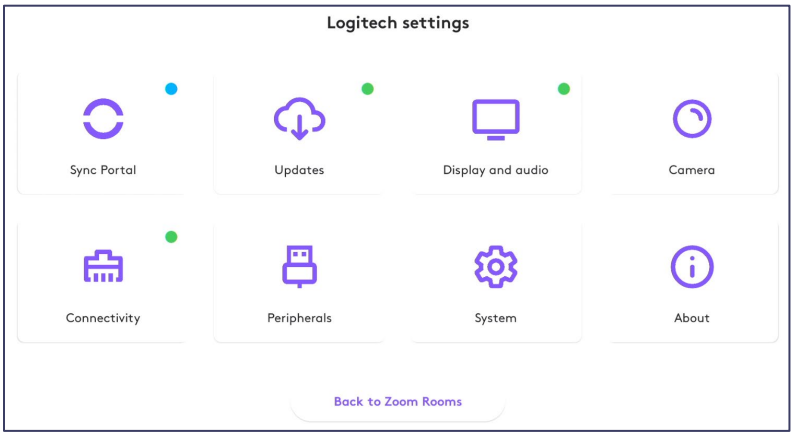

図7：ロジクールRally Bar - 設定メニュー

3) Sync ポータルにサインインします（左下のスクリーンショットを参照）。

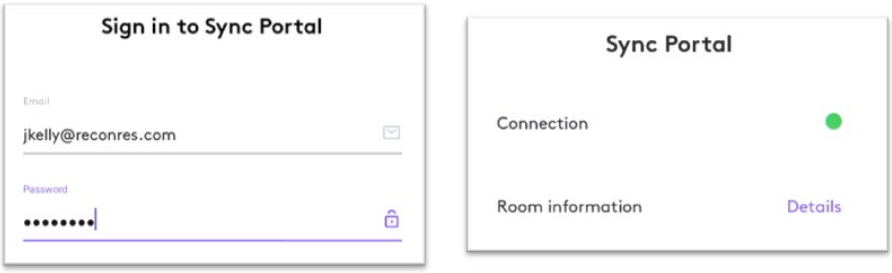

図8：ロジクールRally Bar - Sync ポータルのサインインページ（左）と接続の確認画面（右）

4) 組織を選択します（Sync ポータルでは複数の組織を管理できます）。

数秒後、Rally Bar（とTapコントローラ）がロジクール Syncに正常に登録されました（右上のスクリーンショットを参照）。

---

[3]次の10分で、オプションのディスプレイマウントを使って、当社が用意したディスプレイの下にRally Barを取り付けました。

実地テスト

図9：Rally Barリモコン

Rally Barリモコン

Rally BarのBluetooth LEリモコン（右の写真）では
アプライアンスモードとUSBモードの両方で以下の機能を使えます。

- カメラのパン/チルト
- 戻る（メニュー操作時）
- フックスイッチのオン/オフ
- マイクのミュート
- ズームイン/ズームアウト
- 音量のアップ/ダウン
- プリセット（またはTeamsボタン）

リモコンのすべての機能をテストし、正常に動作することを確認しました。

アプライアンスモード（Zoom Rooms）

Rally BarはZoom認定デバイスであり、Zoom Roomsのエンドポイントとして使用できることをZoomによって厳しく審査されています。[4] アプライアンスモードをテストするために、私たちはロジクールRally Barを使って数多くのZoomビデオ通話を実施しました。
Zoom Roomsの詳細な範囲は本テストの対象外です。 しかし、Rally Barをアプライアンスモードで使用してZoom会議に参加することは、以下の通りとても簡単です。

- 新しい（臨時の）会議は、Tapの[Meet Now（開始）]ボタン、またはタッチディスプレイの[Meet（会議）]ボタンをタップするだけで始められます。
- あらかじめスケジュールされていた会議には、Tapかタッチディスプレイでその会議の[Join（参加）]ボタンをタップすれば参加できます。
- スケジュールされていた会議または臨時の会議には、[Join（参加）]ボタンをタップして会議ID（必要に応じてパスワードも）を入力すれば参加できます。
- ビデオ通話に人または会議室を直接招待する方法は以下の通りです。
    - ロジクール Tapの場合 - [Meet Now（開始）]タブにアクセスし、連絡先/会議室のリストから人または会議室を選択し、[Meet Now（開始）]ボタンをタップします。
    - タッチディスプレイの場合 - [Contacts（連絡先）]ボタンをタップし、連絡先/会議室のリストから人または会議室を選択し、[Start with video（ビデオ通話を開始）]をタップします。

テスト全体を通じて、Rally Barでは
ひときわ優れたZoom Rooms体験が得られました

テスト全体を通じて、Rally Barではひときわ優れたZoom Rooms体験が得られました。

ユーザーインターフェイスのオプション

[4]Rally Barは、Microsoft TeamsでもUSBデバイスとして認定されています。 また、ロジクールは、新たなサービスプロバイダーのサポートを近日中にRally Barに追加する予定です。

アプライアンスモードのRally Barは、以下のユーザーインターフェイス（UI）オプションをサポートしています。

- ロジクールRally Barリモコン
- ロジクール Tap
- タッチディスプレイ

Rally Barリモコン（上記参照）は、主に、カメラ、音量、ミュート操作に使用し、他の2つのUIオプションは、Zoom Roomsの操作に使用します。

ロジクール Tapは10.1インチのUSB接続タッチコントローラで、Zoom Rooms（ZR）、Microsoft Teams Rooms（MTR）、Google Meetの各会議室ソリューションの認定を受けています。

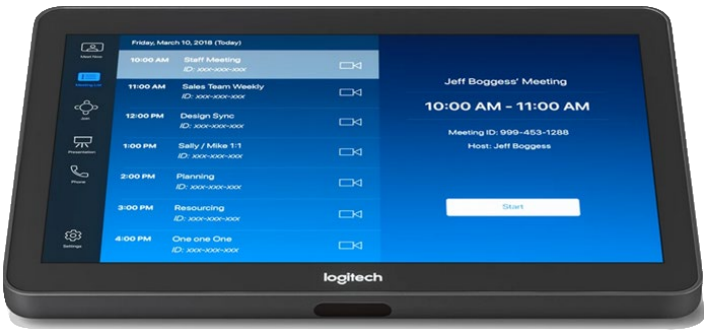

図10：Zoom Roomsのユーザーインターフェイスを表示したロジクール Tap

Tapは、会議室のテーブルに置くまたは固定するか、ウォールマウントキット（オプション）を使って壁に取り付けることが可能です。 Tapの背面にはVESAの取り付け穴もあります。

図11：Tapのマウントオプション（別売）- Tap ライザーマウント（左）、ウォールマウント（中央）、テーブルマウント（右）

Zoom Roomsで使用する場合（この例のようにアプライアンスモードのRally BarでZoom Roomsアプリを実行する場合）、Tapは2つ目のタッチ式ディスプレイとして機能し、ネイティブのZoom Roomsユーザーインターフェイスを提供します。 このUIは、Zoom Roomsシステムに接続されたタッチディスプレイに表示されるUIと非常によく似ています。

Rally Barで使用する場合、TapとタッチディスプレイからZoom Roomsのすべての機能とRally Barの設定ページにアクセスできます（図7参照）。 設定ページでは、管理者は以下を行えます。

- Rally BarをSync ポータルに接続する
- ファームウェアの更新をインストールする
- ディスプレイとオーディオシステムを設定しテストする
- カメラを設定する（会議室内の占有率のカウント、RightSightモードのオン/オフなど）
- ネットワークを設定する
- リモコンと周辺機器を管理する（ステータスの確認、リモコンのペアリングなど）
- 地域設定を行う（国、言語、タイムゾーン、時刻設定など）
- 他にもさまざまな機能あり

TapのUIは、接続されたタッチディスプレイのものと基本的に同じです。 ただし、Tapでは、システム管理や操作を座ったままで簡単に行えますが、タッチディスプレイでシステムを操作するには、会議室の前方まで移動する必要があります。

ロジクール Tapは Zoom Rooms向けの優れたタッチコントローラであり、Rally Barの設定や操作を簡単に行えます。

筆者のメモ - Rally Barでは、あらゆるZoom Roomsユーザーインターフェイスデバイス（iPadやAndroidタブレットなど）の使用が想定されています。 ただし、それらのUIデバイスを使用する場合には以下のことを認識しておく必要があります。

- *これらの他のUIデバイスでは、管理者はRally Barの設定に簡単に接続することはできません。*
- *これらの他のUIデバイスはRally BarのBYODサポートに対応しておらず（下記参照）、BYODモードを起動したとき「Zoom Roomsに接続できません」といったメッセージが表示されます。*

まとめると、ロジクール TapのUIの方がよりユーザー目線で、便利で、エレガントです。

オーディオの性能/体験

マイク性能 - Rally Barは、6本のビームフォーミングマイクからなるマイクアレイ（下図の赤い丸で囲んだ部分）で中会議室における会話音声を捉えます。

Rally Barのマイクアレイは、テストの間一貫して参加者の音声をクリアに捉えていました。定格の集音範囲（4.5メートル）を超える距離でも同様でした。

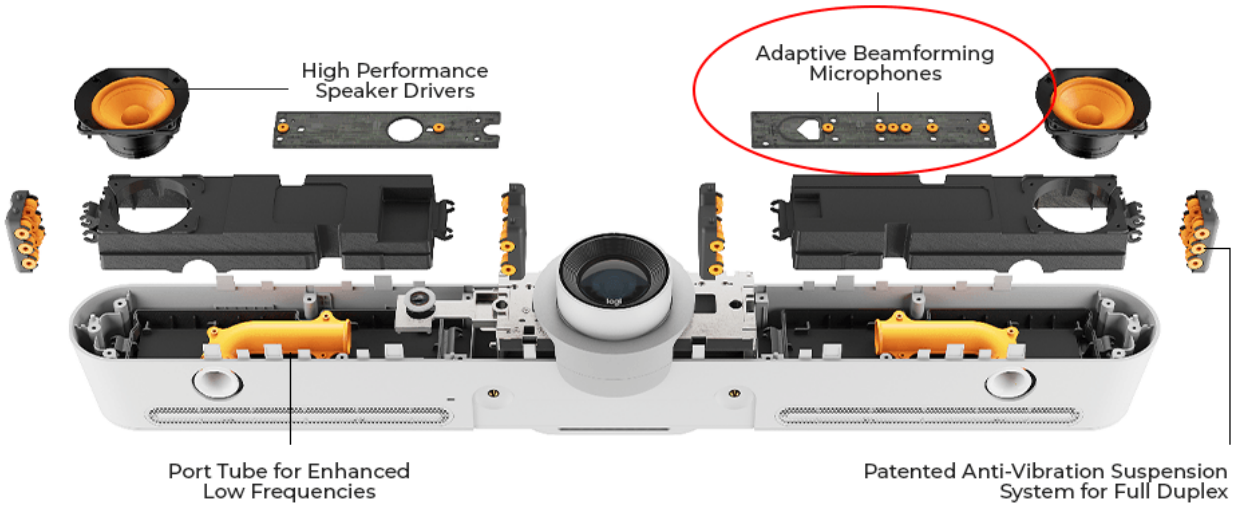

図12：ロジクールRally Bar - オーディオシステムの各要素

大きな会議室で使用する場合、Rally Barには最大3台のRallyマイクポッドを追加できます。各Rallyマイクポッドの集音範囲は、360度で4.5m（定格）です。一体型の接続ケーブルは2.95mで、デイジーチェーン接続により集音範囲を拡大することが可能です。[5] Rallyマイクポッドは、テーブル上に置いたり、テーブルまたは壁に固定したりできます。

複数のRallyマイクポッドを使ってRally Barの使用テストを実施しましたが、結果はきわめて良好でした。

内蔵のマイクアレイ（小会議室および中会議室向け）か、1台または複数のRallyマイクポッド（Rally マイクポッドハブ有無にかかわらず使用可）かを選べるRally Barのマイクシステムは、小会議室や中会議室から、さまざまな形状やレイアウトの大きなスペースまでをカバーします。

ノイズリダクション - Rally Barのノイズリダクション機能をテストするために、テスト通話の最中に会議室にさまざまな騒音を発生させました。

Rally Barのノイズリダクション・サプレッション システムは、周囲の騒音（空調音、交通音、芝刈り機の音など）やその他雑音（タイピング音、ポテトチップスの袋の音など）を除去または大幅に抑制していました。

以下の表は、Rally Barのノイズリダクションシステムの性能の高さを示しています。

	会議室で 誰も話していない場合	会議室で 人が話している場合
周囲の騒音	マイクは自動的にミュートになり会議体験を保護する	周囲の騒音を ほぼ完全に除去する
その他雑音	マイクは自動的にミュートになり会議体験を保護する	周囲の騒音を 大幅に抑制する

図13：ロジクールRally Bar - ノイズリダクションシステムの性能

まとめると、Rally Barのオーディオシステムは、会議中ずっと、会議体験を全体的に保護します。周囲に騒音やその他気になる雑音がある場合でも同様です。

私たちは、Rally Barのノイズリダクションシステムに総合的に高い評価を下しました。

Rally Barのノイズリダクションシステムは、雑音が会議に影響を及ぼす前にそれを除去するか大幅に抑制します。

スピーカー性能 - Rally Barの6.9cmデュアルスピーカーは、通話相手の音声を、中会議室はもちろん、大会議室でも高音質かつ十分な音量で提供しました
注目すべき点として、Rally Barのスピーカーで音楽を再生したところ、低音が抑えられ、時折音が途切れてしまうことが挙げられます。 このことから、ロジクールはRally Barのスピーカーシステムを音楽ではなく話し声に最適化していることがわかります。

エコーキャンセレーション/デュプレックス - すべてのテスト通話で、Rally Barのエコーキャンセレーションはきわめて良好でした。オーディオデュプレックスも、テスト全体を通じて良好でした。

[5]Rally マイクポッドハブ（オプション）を使うと、各Rallyマイクポッドをハブアンドスポークレイアウトで接続できます。

ビデオの性能/体験

参加者の捕捉/ビデオ品質 - 電動式パン/チルト/ズームを搭載したRally Barのカメラは、水平画角（FOV）が82度で、ディスプレイの近くにいる参加者（ハドルルームや小会議室などの場合）も遠くにいる参加者（中会議室などの場合）も簡単に捉えます。

下の写真では、当社のアナリストは会議室のディスプレイから約1.5m離れた場所に座っています。 このテストのために、可能な限りズームインさせてRally Barのカメラ性能を検証しました。

図14：ロジクールRally Bar - カメラがすぐ近くにいるアナリストを写す

下の写真では、当社のアナリストは会議室のディスプレイから約4.3m離れた場所に座っています（中会議室での使用を想定）。

図15：ロジクールRally Bar - カメラが約4.3m離れた場所に座っているアナリストを写す

テスト全体を通じて、Rally Barのカメラではひときわ優れたビデオ体験が得られました。 画像が鮮明[6]、かつ色が鮮やかで、アナリストの顔の肌が持つ色が忠実に再現されていることがわかります。

[6]Rally Barのカメラは2段階でフォーカスを行います。1段階目は大まかなフォーカスで、瞬間的（1、2秒）に行われます。 2段階目は繊細なフォーカスで、最大6秒程度を要します。 両者を組み合わせることで、優れたユーザー体験を生み出しています。

自動会議室内フレーミング - Rally Barのカメラシステムは、会議室内の参加者を自動で検知し、全員が収まるようにカメラを調整します。 この機能は「ロジクールRightSight」と呼ばれ、手動でのカメラ操作なしで会議室内の全員を確実にフレームに収めます。

図16 ： ロジクールRally Bar - 中会議室での自動会議室内フレーミング

上の写真は、Rally Barが中会議室内を自動フレーミングしているところです。2人の参加者はディスプレイから約3.4m離れた場所に座っています。 参加者が（垂直、水平の両方で）画面の中心に映っており、室内の残りの部分もある程度リモートユーザーに見えるようにズームアウトしていることがわかります。

Rally Barのカメラ性能は、テスト全体を通じてきわめて優れていました。

小・中サイズのスペースにて、1人または大勢の参加者で行ったテストでは、Rally Barのカメラシステムは常に参加者を正しく検知し、フレームに収めていました。

Rally Barのカメラシステムの画質と全体的性能に対する私たちの満足度は、きわめて高いものでした。

USBビデオ/オーディオ会議モード

次に、ロジクールRally Barを2つ目の使用例でテストしました。USBを使ってユーザーのノートPC（BYOD会議室モード）または会議室用PCに接続し、会議室のマイク、スピーカー、カメラとして使用する方法です。

USB/BYODモードの起動

このテストのため、Rally BarのUSB 3.0ケーブルとHDMIケーブルを、以下のホストデバイスのそれぞれ（1回につき1台）に接続しました。

- Lenovo Thinkpad X1 Carbon、Windows 10 Pro搭載
- MacBook Pro、macOS Catalina搭載
- MacBook Pro、macOS Big Sur搭載

続いて、Rally BarをUSB（BYOD）モードで使用し、以下（アルファベット順）を含む多数のコラボレーションアプリケーションをテスト用ノートPCで実行して、テストを行いました。

- Cisco Webex
- Google Meet
- Microsoft Teams
- Zoom Meetings

このテスト時点で、Rally BarはUSBデバイスとしてMicrosoft Teamsの認定を受けていました。そこで、上記の各コラボレーションアプリ（およびその他）をテストしましたが、大半の時間をMicrosoft Teamsの使用に費やしました。

USB（BYOD）モードの起動は、Rally BarのUSBケーブルをテスト用のノートPCに接続すれば完了です。 数秒後、Rally BarがそのUSB接続を検出し、左下のようなメッセージが5秒のカウントダウン付きで画面に表示されます。[7]

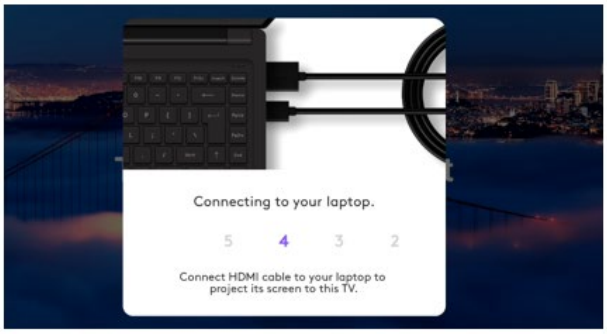

図17：ロジクールRally Bar - USB（BYOD）モードの起動

この5秒間でRally Barはアプライアンスモードから USBモードに切り替わり、接続したノートPCでRally Barのマイク、スピーカー、カメラを使用できるようになりました。

[7]Rally Bar付属の2.2mのUSB 3.0ケーブルでは長さが足りないことがありました。その場合にはサードパーティ製のUSB 2.0ケーブルを代用しました。 パフォーマンスで劣るケーブルを使用した場合でも、ビデオ品質の低下は認められませんでした。

カウントダウンが終了すると、システムに、ノートPCとRally BarをHDMIで接続するように促すグラフィック（右上の画像参照）が表示されます。 HDMIケーブルをノートPCに接続すると、BYODのビデオ通話を行う準備が整います。

USBケーブルを抜けば、BYODモードを終了できます。そうすると、5秒のカウントダウンと「Zoom Roomsモードに移行しています」というメッセージを含む、起動時と同様のグラフィックがRally Barの画面に表示されます。

テスト全体を通じて、Zoom RoomsモードとBYODモード間の切り替えは全く問題なく行えました。

アプライアンスモードとUSB（BYOD）モードを切り替える際にはRally Barの画面に指示が表示されるので、推測に頼っての作業をせずに済みます。

現在、市場ではUSB接続式の会議室用デバイスが数多く販売されています。 しかし、こうしたシステムの大半は、ユーザーにガイダンスをほとんど、あるいはまったく提供していません。 Rally Barでは、画面にメッセージとカウントダウンが表示されるので、推測に頼っての作業を強いられることなくBYODの会議を始められます。[8]

小さな欠点を1つ挙げると、残念なことにRally Barは現時点ではDisplayLinkに対応していません。 そのため、USBモードでは、USBとHDMIの両方をユーザーのノートPCに接続する必要があります。

ユーザーインターフェイス

USB/BYODモードでは、TapはRally Barのコントローラとなり、Rally Barリモコンと同じ機能（音量、ミュート、カメラ操作）を使用できます。 ユーザーは、Tapを使ってRally Barの設定にアクセスすることもできます。

オーディオ/ビデオの体験

ロジクールRally Barは、USB（BYOD）モードで使用したときのパフォーマンスがとりわけ良好で、各コラボレーションアプリおよびホストデバイスでの非常に優れたオーディオ/ビデオ体験をユーザーにもたらします。

Rally Barのカメラは、BYODモードでは手動操作または自動会議室内フレーミングに対応しており、アプライアンスモードでも同様に高品質のビデオ体験を実現します。

当社のテスト通話のほとんどで（Microsoft Teamsを使用した場合を除く[9]）、オーディオ体験は、Rally Barのオーディオ処理とコラボレーションアプリ/サービスのオーディオ処理が組み合わさったものでした。 そのため、オーディオ処理に関してどの程度がRally Barによるものなのかについては、判断がつきませんでした。 ただし、全体的なユーザー体験がきわめて良好だったことは間違いありません。

---

[8]混乱を避けるため、当社は、Zoom Roomsのデフォルトの背景画像を、「テーブル上のUSBケーブルをノートPCに接続してUSB（BYOD）モードを起動するように」という指示を記載したカスタムの画像に置き換えることを、管理者に推奨します。

[9]*筆者のメモ - Rally BarはMicrosoft Teams認定のUSBデバイスです。これは、Rally Barの使用中はTeamsのオーディオ処理システムが自動的に無効化されることを意味します。 別の言い方をすれば、Microsoft TeamsによるBYOD通話の最中は、オーディオ処理はRally Barのみで実行されます。 ただし、他のアプリをUSB（BYOD）モードで使用しているときは、Rally Barのオーディオ処理と、そのサービスプロバイダーのオーディオ処理（ある場合）が両方、使用されます。*

ロジクール Syncを使用したデバイス管理

ロジクール Syncは、システム管理者向けのクラウドベースのプラットフォームであり、ロジクールのビデオ会議デバイスや、各ベンダー（Aver、Crestron、Huddly、Poly、Yamahaなど）のサードパーティ製デバイスの、リモートでの監視と管理を可能にします。

今回、システムを設置する際に（上記参照）、当社のロジクール Sync ポータルアカウントに Rally Barを登録しました。

監視 - Syncは、会議室/デバイスのステータスを示すリアルタイムのインベントリ画面（下のスクリーンショット）を表示し、デバイスに発生している問題や障害を強調表示し、診断情報を提供してトラブルシューティングを促します。

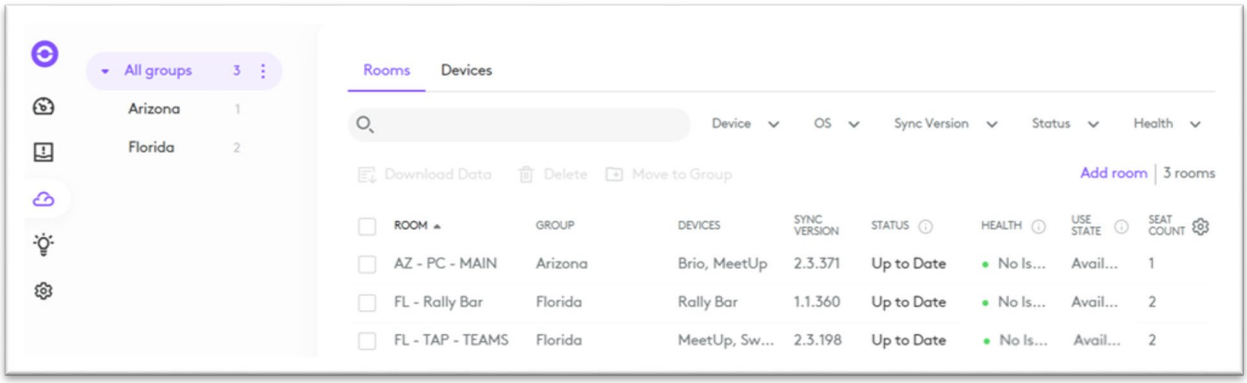

図18：ロジクール Sync ポータル - インベントリ/デバイスリスト

管理 - Syncを使うと、管理者はファームウェアのアップデートを一括適用できるため、全てのデバイスで最新バージョンのソフトウェアを確実に使用することができます。

インサイト/分析 - Syncインサイト（現在はベータ版）は、会議室の使用状況と各会議室の平均使用人数（収容能力に対する使用人数の割合）を提供します。これにより、組織内の設備、スペースプランニング、人事、安全衛生の各チームは、情報に基づいた戦略の立案を行えるようになります。

右のスクリーンショットは、数百の会議室にロジクール製品を導入した組織のデータを示したものです。収容能力に余裕のある会議室も見られますが、いくつかの会議室は平均使用人数を超過していることがわかります（赤い丸で囲んだ部分を参照）。

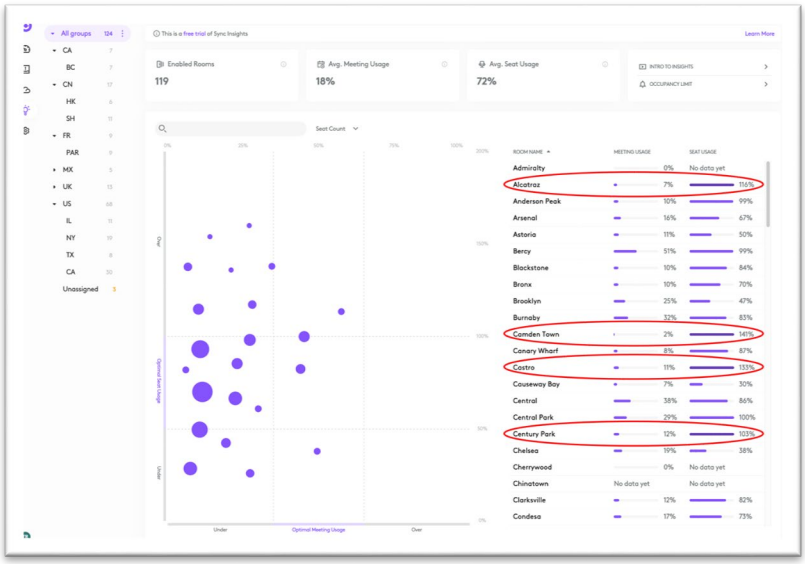

図19：ロジクール Sync ポータル - インサイトシステム

分析結果と考察

ロジクールRally Barは、中会議室での使用を想定して設計されたマルチモードの一体型ビデオバーです。 Rally Barの主要な機能と利点は以下の通りです。

- 柔軟な取り付けオプション
- アプライアンスモードとUSB（BYODおよび会議室用PC）モードを搭載
- 操作方法の選択肢が豊富（手持ち式のリモコン、ロジクール Tap、タッチディスプレイ）
- 光学ズームとデジタルズームを備えたパワフルなカメラシステム
- 参加者全員をフレーム内に収める自動フレーミング
- マイクアレイを内蔵、ロジクールのモジュール式有線マイクシステムにも対応
- ロジクールRightSoundを使用したきわめて高性能なノイズリダクション
- 話し声の再生に最適化された高性能なスピーカードライバ
- ロジクール Sync ポータルを使用したリモートでの監視と管理

Recon Researchチームは、社内の実稼働環境で数週間かけてRally Barをテストし、使用しました。 このデバイスを社内のラボ環境に設置し、Cisco Webex、Google Meet、Microsoft Teams、Zoomなど多数の通話プラットフォームを使ってビデオ通話を実施しました。

Rally Barはすべてのケースで期待通りか期待を上回るパフォーマンスを発揮し、きわめて優れたビデオ/オーディオ会議体験を実現しました。

Rally Barは、アプライアンスモードとUSB（BYOD）モードの両方を使用したテストの間、一貫してきわめて優れたユーザー体験を実現しました。

小さなスペースでの使用を想定して設計された数多くの競合製品とは異なり、Rally Barは始めから中会議室での使用を想定して設計されました。 光学ズームと電動式パン/チルト機能を備えたRally Barのカメラは、ディスプレイから4.5m以上離れた場所に座っている参加者を簡単に捉えます。また、Rallyマイクポッドを接続すると、集音範囲は内蔵マイクアレイのみの場合の4.5mよりさらに遠くにまで及びます。

加えて、Rally Barは、アプライアンスモードとUSB（BYOD）モードに対応し、主要なプラットフォーム（またはサービス）をネイティブにサポートしながら、他のプラットフォームでの会議にも自由に参加できるという汎用性を備えています。

Rally Barがアプライアンスモードで対応しているアプリケーションは、現時点ではZoom Roomsのみです。 ただし、ロジクールはまもなく、対応プラットフォームおよびサービスを増やすものとみられます。[10]

結論として、Rally Barは、ビデオパフォーマンス、オーディオパフォーマンス、複数のオペレーティングモード、小会議室および中会議室のサポートといった点で優れています。

柔軟性を損なうことなく中規模のスペースをビデオ会議に活用したいと考えている企業は、ロジクールRally Barを検討してみてはいかがでしょうか。

[10]提供状況と互換性の詳細についてはこちらをご覧ください。
https://prosupport.logi.com/hc/ja/articles/1500001344641

ロジクールについて

(下記の情報はロジクール提供)

株式会社ロジクールは、スイス連邦のローザンヌに本社を置く、人々にデジタルエクスペリエンスを提供する世界的なリーディング企業、Logitech Internationalが100%出資する日本法人です。さまざまなプラットフォームに対応する多彩なハードウェアとソフトウェアを通じて、デジタル機器を使った生活をより快適なものにします。コンピュータのコントロール製品をはじめとして、ミュージックやビデオ、ゲーミングなど多岐にわたる製品やサービスを、35年以上に渡って提供しています。

ロジクールビデオコラボレーショングループは、コラボレーションによって生まれる品質、生産性、創造性を損なうことなく、どこにいようと組織を横断して互いに顔を見ながら人々がつながれるようにすることで、どこでも働ける勤務形態への永続的転換をサポートします。ロジクールビデオコラボレーション製品の詳細については、www.logicool.co.jp/vc、@LogicoolGでご確認いただけます。

Recon Researchについて

Recon Research (RR) は、企業のコミュニケーション分野に焦点を当てた分析/市場調査会社です。 当社は、ユニファイドコミュニケーション、ビデオ会議、コラボレーションとアイディエーション、AVソリューション、ワイヤレスプレゼンテーションなどを対象にしています。

RRは、企業のお客様、ベンダー、チャネルパートナー、プロの投資家の方々に、事実に基づいて意思決定するために必要な情報と洞察を提供しています。

RRは、15年以上にわたる企業ブリーフィング、市場分析、対象分野の製品およびサービスの実地テストに基づく深い知識と経験で、他社と一線を画しています。

詳しくは、www.reconres.comをご覧ください。

連絡先情報

Recon Research, Inc.
11910 Lake House Lane
Parkland, FL 33076 USA

著作権通知

本ドキュメント内の情報は Recon Research, Inc.(RR) に帰属し、米国および国際著作権法によって保護されています。

商標通知

本刊行物に記載されているすべての企業、製品、サービス名は、各所有者の商号、商標または登録商標です。

画像・グラフィック

本刊行物で使用されているすべての画像とグラフィックは、RRまたは各所有者の厚意によって作成、所有、ライセンスされたものです。